

村上 松平 議員

(一括質問方式)



- ①観光と町並み整備
- ②DX化の現状とこれからの見通し
- ③田んぼダムの推進

町並みと一体化した石畳の道路改修について

問 おはなはん通りや臥龍山荘へ向かう道など、石畳式が続く道路が整備されている場所と、古民家を改修した宿泊所などアスファルト舗装の場所が混在し、懐古的な雰囲気のある町並みとして統一感が図られていないが、石畳式への統一した改修を進めることはできないか。

答 当該地区の舗装は、石畳舗装、れんが舗装、インターロッキング舗装及びアスファルト舗装が混在している現状となっており、歴史的風致の向上及び景観に配慮した舗装整備を図る目的で、令和4年度に動線環境整備の検討を開始しました。修繕する路線及び改修する路線を選定し、第2期都市再生整備計画に位置づけ、国の補助金を活用しながら今年度より事業に着手しています。

改修する路線は、市道本町線、市道中町線など、国道56号より東側の5路線を計画しており、改修方法は町並みと景観、歩行者の安全等を勘案し、石畳風アスファルト舗装としています。対象とする路線が複数あることから、今年度は市道元吉町線の修繕及び市道本町線の改修に着手し、その他の路線は年次計画に基づきながら順次進めていきます。

DX化の現状とこれからの見通しについて

問 DX化は住民の利便性を向上させる意味において重要な施策の1つとなるが、本市行政でのDX化の状況や課題について伺いたい。

答 令和3年度に策定した大洲市DX推進計画に基づいた事業を展開しながら、新たな取組について検討を進めています。具体的事例として、令和4年度にはマイナンバーカードを活用することで本庁、支所の窓口において申請書記入の手間が省かれる「書かない窓口」、全国でのコンビニエンスストア等で

各種証明書等が取得できるコンビニ交付開始といった取組を行っています。

今年度は、公共施設を利用する際に、パソコンやスマートフォンから予約できるシステムと、それに連動しメールで送られてくる暗証番号により鍵の解錠が可能となるスマートロックの実証実験に取り組んでいます。10月3日からは市町が共同利用するえひめ電子申請システムを利用し、一部行政手続の申請等がスマートフォンなどを活用して自宅からも行えるような取組も準備を進めています。

見えてきた課題としては、自治体がデジタル化施策を推進するに当たり、人材と財源が大きな課題となっています。そのため、職員の人材育成には愛媛県との連携事業により、DXの各分野の専門官による研修事業や個別指導を受けるなど、今後も市民本位の視点でDXを推進できる人材の育成に努めます。

田んぼダムの推進について

問 田んぼダムは政府が発表した国土強靱化年次計画の中でも重要な事項と位置づけられている。本市の治水対策の施策の一つとしてしっかりと予算を確保し、推進、普及させていくべきと考えるがいかがか。

答 田んぼダムは、水田に雨水を一時的に貯留することにより、排水のピーク時間を遅延させる効果が期待されています。

本市でも流域治水対策の一環として、市内4地区において約10.9haの水田で田んぼダムの実証試験に取り組んでいますが、現状の水田に堰板を設置する方法を採用することで、畦畔の盛土や整地の必要がないことから、農家の方の手間や負担も最小限に抑制できるものと考えています。

本格的な実施は、国や県などの有利な制度を活用するとともに、流域治水に関する支援並びに必要となる予算の確保について、大洲市、西予市、内子町で組織する肱川流域総合整備推進協議会で要望活動を実施するなど、引き続き広域的な連携と推進に取り組んでいきます。